

行政視察の報告

～先進地の取り組みを学ぶ～

視察先：岩手県紫波町

平成27年12月2日から3日にかけて、岩手県紫波町において「木質バイオマス」と「オガールプロジェクト」の各事業をテーマに行政視察研修を実施いたしました。



紫波町は自然と文化を享受するいのちの循環を目標に掲げた「循環型まちづくり」を施策方針としており、その一つとして取り組まれているのが木質バイオマス事業であります。この事業では年間1000tのチップを町内生産可能としており、それらは紫波町庁舎やオガールタウンの住宅などに熱供給されておりました。チップの生産に当たっては「間伐材を運び隊」などのボランティアを活用するなど工夫もされており、町産材と住民の力がよく活用された事業でした。



また、同町は少子高齢化が進むと共に求人倍率も低迷してきていることが問題視されておりました。そこで立ち上げられたのが「紫波中央駅前都市整備事業」、通称「オガールプロジェクト」であります。本プロジェクトは公民連携によって都市と農村の暮らしを愉しみ、環境や景観に配慮した町づくりを表現することを理念とし、誰もがこんな町に住みたい、こんな町で働きたいと思える町を開発することを目的としております。

これによりエリアには明確な役割分担ができ、町づくりの拠点となって多くの生産者が加入するようになり、不動産の価値も向上するなど数々の恩恵がもたらされ、現在では全国から日々多くの視察希望者が来町するほどの一大プロジェクトとなっております。

副議長 吉野一夫



所管事務調査の報告

～世代間交流住宅新築工事と入居状況、地域担い手づくり支援住宅工事～

総務文教常任委員会

平成28年2月15日、世代間交流住宅新築工事、世代間交流住宅の入居状況、地域担い手づくり支援住宅2号棟新築工事の所管事務調査を実施した結果をご報告いたします。

世代間交流住宅は町内に居住または居住しようとする若者世代が、町への定住促進および快適な生活を協力して営むことができるような住宅として建てられ、7戸連棟のうち5戸が若者用住宅、2戸が高齢者用住宅となっております。坪単価は74万7793円で一戸約1669万7143円。建築木材の56%が国産材でしたが、町産材は皆無でした。現在の入居状況は2戸4名のため、早急な全戸入居を望みます。

地域担い手づくり支援住宅2号棟は、40歳未満の若い世代を定住させ、将来の地域の担い手として地域コミュニティの維持を図るために建築したものです。坪単価は62万1391円。この建物は入居する方が自分の持ち家を建築するときのように入居者の希望を大切に建築されていきましたが、建築業者は入居者の内装希望の件で大変苦慮していました。建築木材は30%が国産材で、大黒柱のみ町産材でした。

この調査では、建物は一戸建てが望ましい、町産材の活用が急務、克雪にも考慮してほしいなどの意見が出されました。それらを考慮し、住宅建設を実施されることを切望し、総務文教常任委員会の報告いたします。

委員長 武藏重幸

産業建設常任委員会

世代間交流住宅新築工事と入居状況、更に地域担い手づくり支援住宅2号棟の新築工事を、2月15日、農林建設課岩間課長、平賀補佐、高橋主事を説明員とし総務文教常任委員会との合同での調査を実施しましたのでご報告申し上げます。

世代間交流住宅は町への定住促進を目的に関地区の一枚田地区内に建設されました。総工費は1億4688万円で延べ床面積は54.69㎡。7室中2室が高齢者向け、5室は若者向けで現在入居者数は2室4名。今後地元企業の勤務者から入居が予定されています。建物を占める国産材の割合は56%、外国産材は44%で町産材の利用はありません。長屋方式で懸念された壁越しの音も気にならず快適と感じましたが、高齢者向けの手摺りなどが少ないと感じました。

担い手づくり支援住宅2号棟は現在80%の進捗状況で、40歳未満の若い世帯の定住により将来の町の発展を図ることが目的で関地区明神前に建設中。延べ床面積113.85㎡で請負金額は2143万8千円、国産材は30%、外国産材は70%の利用率となります。この住宅は入居予定者が間取りや壁紙を選ぶことができ、20年住めば土地と建物は入居者のものとなります。隣の1号棟には既に若い世帯が入居しており、次年度以降も関上、瀬見原に建設予定であることから地区との交流を深め地域のコミュニティの維持を図ってほしいことと、町産材を多く使用する仕組みの構築と土地の計画的な利用を希望し報告いたします。

委員長 梅津政志